



新潟教区報 第123号
2018(平成30)年12月14日発行

平成三十年度 仏教青年連盟主催 「教区の集い」 を終えて

新潟教区仏教青年連盟委員長 皆川 賢太郎

日時 平成三十年九月二日(日) 十六時〜二十時三十分
会場 本願寺新潟別院(参加者二十六名)
テーマ 本願寺新潟別院を知ろう!!
内容 内陣荘嚴の説明・荘嚴クイズ・夕食交流会(BBQ)・灯火ともしびの集い

去る九月二日に新潟教区仏教青年連盟主催の教区の集いを開催致しました。

今年の教区の集いでは、「本願寺新潟別院を知ろう」というテーマのもと、別院の沿革を職員の方から説明してもらい、内陣のお荘嚴を説明した後に、実際に内陣を見てもらい、班ごとに分かれてお荘嚴や別院の沿革に関するクイズを行いました。

夕食交流会ではクイズの結果発表の後、正解の多かった班に豪華な食材が贈呈されました。班での交流はもちろん、途中からは参加者もスタッフも一緒になり花火やBBQ、会話を楽しみました。

夕食交流会の片付け後、一旦解散となりましたが、参加者・スタッフ全員が名残りを惜しんで残り、交流を続けました。最後の灯火の集いでは、蠟燭の明かりの中心一人一人が今日の感想を述べ、参加者からは『楽しかった』『是非また参加したい』という嬉しい声をいただきました。

今年の教区の集いに参加してくださった方の多くは、別院に初めて来られる方だったこともあり、別院や浄土真宗について知っていただくことを中心に構成いたしました。これからも、浄土真宗のお寺や教えを知ってもらう活動を継続していくことによってお寺を身近に感じてもらいたいと思っております。

教区の集いを行うにあたり、別院の職員の方々をはじめ、青年教化指導員の方々やお手伝いいただいた方々には準備・運営にご尽力いただきました。厚く御礼申し上げます。

長岡組主管 第三十八回新潟教区仏教婦人大会を終えて

長岡組了覚寺坊守 小川 朝美

日時 平成三十年十一月十日(土)十時～十五時十分

会場 本願寺新潟別院(参加者二四六名)

テーマ 生死を見つめて～いのち輝いていますか～

講師 長岡西病院ビハラー病棟 医師 板野 武司さん
看護師長 市川真紀子さん
ビハラー僧 雲林 重正さん

シンガーソングライター・奈良教区教恩寺住職 やなせ ななさん

今大会の第一部は長岡西病院ビハラー病棟の医師と看護師長・ビハラー僧よりビハラー病棟の取り組みについてお聞きしました。いのちの灯が今燃え尽きようとしている時に最期まで寄り添ってゆこうとすることがビハラーです。会場の皆様からも質問やご意見が尽きず、終末医療やビハラーを他人事だけでなく自身の問題として捉えていただけていると感じました。

第二部は僧侶でシンガーソングライターのやなせななさんをお迎えしてご法話と素晴らしい歌声を聞かせていただきました。ご自身の辛い闘病経験を通してご法話は柔らかな関西弁で優しく語られ、その歌声は聴く者の心の中まで温かく広がり、多くの方が涙しておられました。

今大会がいのち・生死をより深く見つめなおすきっかけとなれば幸いです。大会に参加された方々・スタッフ・教務所職員の方々に心より深く感謝申し上げます。

第38回新潟教区仏教婦人大会



第一部 ビハラーについての講演



第二部 法話コンサート

与板組主管 第三十六回新潟教区仏教壮年研修大会を終えて

与板組仏教壮年会会長 山崎隆行 (法名釋智行 中央教修一七八回生)

日時 平成三十年十一月十八日(日)十三時三十分～十六時

会場 本願寺新潟別院(参加者八十七名)

テーマ 伝えようお念仏の喜びを

講師 本願寺派布教使・三条組長念寺住職 山之内 浩乘さん
声楽家 永井 優子さん
伴奏 井林 祥子さん

第三十六回新潟教区仏教壮年研修大会を与板組が主管し、八十七名の参加のもと開催運営することができました。ここに深く御礼申し上げます。大会テーマは「伝えようお念仏の喜びを」と掲げて開催致しました。

記念講演のご講師は、新潟教区三条組長念寺、山之内浩乗ご住職にお願いし、講題「家族礼拝のすすめ」、サブテーマ「お寺が身近になるように」と題して記念講演をいただきました。

引き続き行われた記念コンサートでは、声楽家の永井優子さんより素晴らしい美声で、慣れ親しんだ仏教讃歌や懐かしい唱歌をご披露いただきました。

記念講演の中で、ご講師が山口県から新潟県の長念寺様に入寺され、何から始めたらよいか迷われた中で、最初は本堂の清掃に力を入られたこと。そして綺麗になったお内陣に触れては、少しずつこのお寺が好きになって行かれたこと。ご門徒のお宅へ、夕食の時間を目標けて熱心に足を運ばれたこと。しかし、思うように事は進まず断念しかけたとき、ようやく一人のご門徒さんから「住職、何をすればいいのかわね」と声を掛けてもらったこと。それを機に、仲間が集い一気に仏教壮年会が発足したこと。どれもこれも感動的でした。仏教壮年会活動について私の出来ることとは何かを考えさせられるご縁でした。



記念講演

法話 「正覚大音響流十方」

与板組雲外寺住職 真敷 祐孝

真宗寺院の梵鐘には二つの大切な言葉が刻印されています。一つは「南無阿弥陀仏」の六字名号。もう一つは「正覚大音響流十方」の『大無量寿経』の『讚仏偈』のお言葉です。「正覚の大音、響き十方に流る」と読みます。意訳として「さとのみこと高らかに、あまねく十方（よも）にひびくなり」と「さだんのうた」にあります。

どんなに深い学問を極め、厳しい修行に励んでも私たちは凡夫である。その凡夫を救うはたらきを完成させた阿弥陀様のよるこびが、この経文の「正覚大音響流十方」「南無阿弥陀仏」の呼び声となって、今、私のいのちの真つ只中に至りどいてくださいます。

自坊の鐘樓堂が再建されて十年目を迎えます。先代の梵鐘は戦時中に供出し、鐘樓堂は昭和二十年八月一日の長岡空襲で全焼しました。阿弥陀様の「あなたのまことの拠り所となろう」というはたらきを鐘の音に託して、私に気づきを促してくださいるのが梵鐘です。その梵鐘を、人を殺すための武器や弾や戦車に作り替えられることに協力しなければならなかった、先人達の悔しきや無念さはどれほどのものだったでしょう。

自坊の梵鐘はそれから六十四年ぶりの復活です。毎日夕方に地域の子どもさんたちに鐘を撞いてもらい、境内は賑わいます。ある時、福島第一原発事故で自主避難をされてきた男の子が「福島のおばちゃんにも聞こえるかな？」と願いを込めて撞いていた姿が忘れられません。子どもさんたちにとっても鐘の音が少しでも真の拠り所となり、今日を生きる勇氣となれば、これほど有り難いことはありません。

「阿弥陀経」というお経には、私たちが生きている時代社会を「五濁悪時」（濁りきった時代社会）と説かれています。そのような中で私たちは、平和を実現しようとするながらも、そのための争いを続けています。また、幸せを求めているつもりが、かえって不安や苛立ちを募らせているのではないのでしょうか。

このような時であるからこそ、この私に何とかしてやすらぎを与えたいと願われている阿弥陀様のはたらきが、今日も「南無阿弥陀仏」とよび続けてくださっているのだと、あじわわせていただいております。

与板城大手門 修復完成慶讃法要について

新潟別院第一の門は与板城大手門として建立され、戊辰戦争の戦火を逃れ、一八七一年（明治四年）に当時の与板町民の永代護持の願いのもとで別院へ移築されました。現在は長岡市の有形文化財となっており歴史的に貴重な建造物であります。

この大手門は過去に大雪で倒壊した際に当時の与板町内の方々並びに与板町などのご協力を得て修復された経緯もありますが、それから二十余年余りが経過し、老朽化と損傷など著しく、通行の方々にも危険が及ぶことも危惧され、長岡市の助成金（工事費の半額）と与板町内並びに教区内の皆様のご懇志により、修復をいたしました。修復工事は本年七月二十七日から九月二十七日までの二ヶ月に渡り行われ、十月二十三日修行の新潟別院謝恩講法要に併せ、与板城大手門修復完成慶讃法要がおつとめされました。

工事費総額	三、四九九、二〇〇円
長岡市助成金	一、七四九、〇〇〇円
与板町内 ご懇志	一、三三九、六〇〇円
教区内寺院 関係等ご懇志	二六六、〇〇〇円
長岡市助成金 懇志合計額	三、三五四、六〇〇円
（十一月三十日現在）	

なお、現在も大手門修復懇志の受付をいたしておりますので、引き続きご理解・ご協力の程、宜しくお願い致します。



大手門修復完成慶讃法要終了後の大手門

（講師・別院役職者・法要ご出席の与板町内会長と有縁の方々）

寺院巡り

長岡組 徳宗寺

住所 長岡市日赤町二丁目二番四五号

電話 〇二五八―三三―三二九三



本堂



旧三条別院御本尊



岩野信光寺御本尊



善性御影

当寺の嚆矢濫觴は、親鸞聖人二十四輩第九番目の親弟善性比丘（一一八三〜一二四〇）にはじまるといふ。善性は信濃国高井郡井上村（現長野県須坂市井上町）信濃源氏頼季流井上城主井上越後守善勝の嫡男井上信濃守善親として、寿永二（一一八三）年に生誕する。父子共に東国滞留中の聖人に帰依すること篤く、善親は名を善性と改め、承久三（一二二一）年に下総国磯部村（現茨城県古河市磯部）に一字を建立して勝願寺と号し、延応二（一二四〇）年八月十二日に五十八歳で往生の素懐を遂げた。その流れを汲み、更なる磯部門流を弘伝通せんが為、第五世（開基）空信が磯部から信越国を行脚したという。その後、第三世尊慶に至り以降は暫く衰退の途を辿りながらも、第十二世教尊は石山合戦により、同宗の寺族・信徒と共に信濃川を下り越後国へ来たる。そして、古志郡蔵王村（現長岡市蔵王）に信徒の帰向を得て一字を建立するのであるが、時に徳宗寺の前身である長岡井上浄光寺時代の沿革であった。

教尊は文禄元（一五九二）年に、会津藩主蒲生氏郷に招聘され、会津浄光寺を興し、この地に終焉する。この時に寺号を徳宗寺へと改め、元和二（一六一六）年に長岡町字大工町（現日赤町）へ転じたのである。その後、三度伽藍灰燼に帰するも、第廿四世憲司が昭和卅三（一九五八）年に本堂を再建し、翌年に本願寺第廿三代宗主勝如上人御巡教の折に落成慶讃法要を舉行せり。その後、平成七（一九九五）年に第廿五世昭永が内陣・向拝・客殿の建立並びに同十（一九九八）年に落慶法要を舉行せり。そして、第廿六世和光に至り、平成十四（二〇〇二）年に本願寺旧三条別院阿弥陀如来立像一軀・祖師御影一幅及び御莊嚴一式の永代御預をし、翌年に御入仏・永代御預法要を舉行せり。続く平成十九（二〇〇七）年に旧塔頭の岩野信光寺廃寺により、御本尊はじめ宝法物並びに御莊嚴を永代御預せんが為、翌年十月に御入仏並びに宝法物永代御預法要を舉行し現今に至る。

今後の予定

・新潟別院除夜会・元旦会

日 時 平成三十年十二月三十一日（月）二十三時〜除夜会
平成三十一年一月一日（火）七時〜元旦会

・組長会

日 時 一月十一日（金）十三時三十分〜
会 場 本願寺新潟別院

・布教団研修会

日 時 二月四日（月）十四時〜十六時
会 場 長岡または新潟

・第三十三回人權啓発研究集会

日 時 二月六日（水）〜七日（木）
会 場 朱鷺メッセ「展示ホール」

・連研履修者研修会

日 時 二月二十四日（日）十三時三十分〜十六時三十五分
テーマ・講師ともに未定

・得度習礼講習会

日 時 三月二日（土）

※申込締切は二月四日（月）まで。教区内受講者が無しの場合中止。

・新潟別院常例法座

日 時 三月九日（土）十時三十分〜十二時
講 師 尾崎 道裕さん（本願寺派布教使・奈良教区實原寺）

・若い女性聞法の集い

日 時 三月十日（日）九時三十分〜十二時
テーマ 「初参式って知っていますか？〜初めの一歩はお寺から〜」

・真宗教団連合新潟県支部公開講演会

日 時 三月十二日（火）
テーマ・講師ともに未定

・どんとこいフェスタ

日 時 三月二十四日（日）

・原発問題に関する研修会

日 時 三月二十五日（月）十三時三十分
テーマ 「原発再稼働に見る問題点」

講 師 桑原 三恵さん（いのち・原発を考える新潟女性の会代表）

ラジオ法話 新潟教区布教団による ラジオ法話

F Mながおか 八〇・七 毎週月曜〜金曜 十六時十五分よりの放送中です。

（放送地域は長岡市全域、小千谷市、小国、川口、山古志、出雲崎、見附）

編集／浄土真宗本願寺派 「御同朋の社会をめざす運動」新潟教区委員会 広報部会
〒九四〇―二四〇二 新潟県長岡市与板町与板乙四三五六 本願寺新潟別院内
TEL: 〇二五八七二二二二〇 FAX: 〇二五八七二二二五三六